



名古屋商工会議所

中期ビジョン 2026-2030

好循環を生む
ビジネス創造×交流都市



中期ビジョン2026-2030策定にあたって

- 名古屋商工会議所は、『中期計画2021-2025』において、**2040年の名古屋の将来像を「イノベーション誘発都市・ナゴヤ」と定め**、バックキャストिंगによって計画を策定するとともに、その実現に取り組んできた。
- 2026年からの新たな5年間は、リニア中央新幹線の整備促進や国際的ビッグイベントの開催、AI等の活用によるDXの浸透などを要因として、当地がダイナミックに変革していく重要な期間となる。
- その一方で、世界は不確実性の高いVUCAの時代であり、社会構造の変化に柔軟に対応する力が必要となる。
- また、人口減少による人手不足と、若者を中心とした人材の関東圏への流出は、当地が乗り越えていかなければならない極めて大きな問題となっている。
- こうした状況を踏まえ、『中期ビジョン2026-2030』は、『中期計画2021-2025』の将来像を継承しながら、これまでに得た経験・知見を土台として、**2026年からの名古屋商工会議所の5年間の事業の指針(ビジョン)を示すもの**として取りまとめた。
- 具体的には、**当地の中小企業や産業の育成を促す「ビジネス創造機能」と都市のブランド力強化と賑わい創出の「交流都市機能」の2つの機能の好循環**によって、高度人材や専門人材をはじめとした多様な人材の集積を目指していく。
- **2031年、名古屋商工会議所は150周年の節目の時を迎える。**
『中期ビジョン2026-2030』の先には、名古屋経済の発展とともに、脈々と続いてきた名古屋商工会議所の新たな時代の幕開けを控えている。
- 2040年の未来に向けて、名古屋商工会議所は、『中期ビジョン2026-2030』の実現を通じて、今後も歩みを進める。

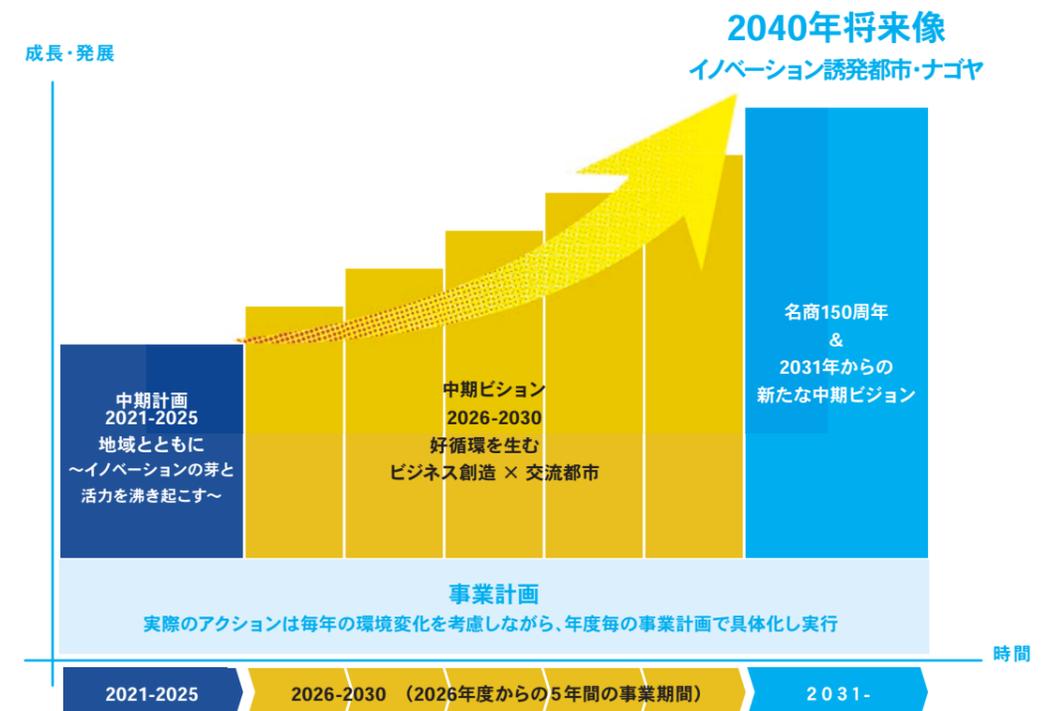
2040年の名古屋の将来像 イノベーション誘発都市・ナゴヤ

1. モノづくりの技術力とAI・ロボット、ビッグデータの活用により、国内有数の生産性を誇る日本の中心的ビジネス拠点である
2. 新たな価値を生むために挑戦する人材が世界から集い、常に挑戦しようとする文化が根付いている
3. リニア中央新幹線の開業や先進性の高いDXの取り組みにより、日本中央回廊の中心的役割を担う
4. 独自の文化や豊富な観光資源により、多数の来訪者が訪れる

中期ビジョン2026-2030の位置づけ

『中期ビジョン2026-2030』は、2030年に向けた名古屋商工会議所の中期的な取り組みの指針。

具体的なアクションについては、毎年の様々な環境変化を考慮しながら、年度毎の事業計画で具体化し実行する。



1. 2030年ありたい姿 ~内外の環境と名商の役割~

2030年 ありたい姿

- 「ビジネス創造機能」と「交流都市機能」の好循環
- 都市のブランド力により高度人材・専門人材が集積
- 多様な人材が地域に新たな価値を創出

ビジネス創造機能

世界に誇る技術・サービスを有する中小企業や活力ある起業家・次世代リーダーが「ビジネス拠点」と位置付ける環境が、リアル・デジタルの両面で整備された都市

自動運転・空飛ぶクルマ等の最先端のモビリティが市内を回遊し、環境分野をはじめとする実証実験・社会実験を他の地域に先行して実施

交流都市機能

ビジネス、観光、食、アート、文化体験を目的に、若者・女性・外国人等、クリエイティブで多様な人材が世界中から集積

カーボンニュートラルポート、空モビリティなどの先端インフラ整備やMICE施設が整うことで、回遊性が高く、面的な広がりを持つ都市

国内外の人々を魅了する観光スポット・文化を世界に発信



名古屋を取り巻く外部環境

現代は、不確実で複雑、不透明で曖昧なVUCAの時代

世界

- 貿易摩擦激化による自由貿易体制崩壊への懸念
- 地政学的リスクや経済安全保障問題の顕在化

経済

- 人口減少社会の到来(労働供給制約社会)
- スタートアップ育成や事業承継促進の必要性の高まり

社会

- 持続可能な社会や生物多様性を尊重する動きの広がり
- 価値観の多様化や人間中心の社会設計への関心の高まり

技術

- AIをはじめとするデジタル技術の進展と浸透
- 自動運転技術やロボット等の次世代技術の発展
- 水素等脱炭素社会を見据えた次世代エネルギーの活用促進



名古屋の環境

経済的な豊かさや快適な生活環境を備える一方で、都市のブランドやクリエイティビティの向上が必要

経済

強み

- 自動車産業を軸とする産業基盤(高いモノづくり技術)
- 中小企業が支える強固なサプライチェーン
- スタートアップ支援拠点の整備・充実
- 人口約230万人の大都市(大きな商圏)
- 大手企業や老舗企業の立地

課題

- 自動車産業に支えられる反面、次世代産業の育成が必要

地域

強み

- 日本の中心に位置し、道路網や交通インフラが発達
- リニア中央新幹線開業による広域ネットワーク強化の期待
- 名古屋駅周辺の大型再開発等による都市機能の高度化
- 大学・民間・公的機関等の先端研究機関の集積
- 歴史・文化資源が豊富(有名武将、熱田神宮、食文化等)
- 自然への高いアクセス性や広い道路・住宅等、住環境が国内トップレベル

課題

- 都市のブランド力の強化(インバウンド施策強化)
- 若年層を中心とした東京圏への人材流出を阻止する都市環境づくり
- 大規模災害等への備えの強化



名古屋商工会議所の役割



使命と機能

商工会議所法に基づき設立される商工会議所は、「会員企業の発展」「地域の発展」「わが国経済社会の発展」を使命とし、会員によって成り立つ(商工会議所=会員企業の総体)地域総合経済団体(非営利組織)

- 1 企業の挑戦を支え、地域経済と日本経済の発展に貢献する
- 2 地域の事業者は商工会議所への所属を通じ、地域経済の発展の一翼を担う
- 3 地域を代表する経済団体として、地域の事業者と行政とのパイプ役を担う
- 4 ビジネスやヒトの集まる結節点となる

強み

名古屋商工会議所は、会員ネットワークや幅広いサービスに強みを持つ

- 1 17,000社を超える会員ネットワークを有する
- 2 様々な提言・要望活動と幅広いビジネス支援サービスの実施
- 3 140年を超える歴史に裏打ちされた地域と行政からの高い信頼

2. 中期ビジョン 2026-2030

2040年 将来像

イノベーション誘発都市・ナゴヤ

「中期計画2021-2025」において掲げた未来像を継承

2030年 ありたい姿

「ビジネス創造機能」と「交流都市機能」の好循環
都市のブランド力により高度人材・専門人材が集積
多様な人材が地域に新たな価値を創出

ビジネス創造機能

交流都市機能



好循環を生む ビジネス創造×交流都市

中小企業の挑戦と成長の支援を起点に地域社会に新たな魅力を生み出し、
ビジネス都市としてのブランド力向上へ繋げていくことで、好循環を生み出していく。

指針 1 中小企業の挑戦を伴走支援

- データ分析に基づくビジネスチャンスの拡大支援
 - 企業情報及び経営課題の分析に基づく商談・交流事業の強化
 - 公的機関や異業種・他団体とのビジネスチャンスの創出
- 新事業創出・海外展開・社会実験支援
 - 新たな展開や新事業創出のための社会実験支援
 - 会員企業の海外展開支援
- 創業・事業承継支援/企業育成
 - 創業支援や事業承継支援による企業の新陳代謝の促進
 - リーディングカンパニーやスタートアップ企業の育成支援
- 外国人をはじめ多様な人材活用に向けたビジネス環境の整備
 - 外国人をはじめ多様な人材が働きやすい環境の整備促進
 - ビジネス環境向上に向けた企業の声の集約と提言・要望活動

指針 2 産業競争力の向上

- デジタル・省人化及び経営の高度化支援
 - AIやデータ活用による経営の高度化支援
 - 省人化と技能承継に向けたDX支援
- モノづくりの更なる進化に向けた支援
 - デジタル技術を活用したモノづくりの推進
 - イノベーションを生む他業種との事業連携促進
- 新産業の振興と集積促進
 - 次世代産業の育成強化
 - 特区指定や本社機能・高付加価値業種の移転による産業集積の促進
- 企業のブランド力向上と発信
 - 会員企業のブランド力創出及び向上のための支援事業の実施
 - 会員企業の技術力や商品・サービスのPR機会の創出

指針 3 ビジネス都市のブランド力強化

- ビジネスパーソン満足度向上
 - ビジネスパーソン同士の交流促進
 - ビジネス客を想定した観光コンテンツの開発
- リニア開業を活かすハブ機能の強化
 - CNP(カーボンニュートラルポート)や空モビリティなどの先端インフラの整備促進
 - 名古屋駅のスーパーモビリティハブ構想の具現化
- 特徴ある国際会議・ビッグイベントの誘致
 - 特徴ある国際会議・イベントの誘致と実現
 - 多言語対応及び多文化共生の促進によるMICEの受け入れ環境整備の強化
- ビジネスと紐づいたまちづくりの推進
 - 憩いの空間や公共空間のビジネス利用の促進
 - 最先端技術の体験イベント等を通じた交流人口の増加促進

指針 4 よりよく働き楽しめるまちづくり

- 職住一体の消費活動の拡大
 - 消費を生むイベントの実施とナイトタイムエコノミーの拡大
 - 銘品・逸品の発掘と発信
- 暮らしやすさの魅力向上
 - 外国人をはじめ誰もが住みやすい生活環境の整備促進
 - 人間中心のまちづくりの推進
- 回遊性向上に向けた新たなモビリティサービスの整備
 - 社会受容性向上に向けた普及啓発と規制緩和の促進
 - 回遊性向上に資するモビリティサービスの導入の推進
- 魅力創出のための官民連携推進と提言・要望
 - 官民連携による都心のまちづくりの推進
 - 地域の声の集約と各種調査に基づいた提言・要望活動

1 2030年の地域経済の展望

人口(労働)

- 人口・生産年齢人口ともに減少し、一層の少子高齢化社会が加速
- 女性M字カーブの解消や高齢者の労働参加率の向上に向け、働きやすい社会環境の整備が進む
- 愛知県は東京に次いで外国人労働者数が多く、製造業を中心に外国人の「社会増」が継続
- AIやロボット活用により省力化が進展。単純作業の自動化や意思決定を支援する

経済

- 地政学リスクの高まりを背景に経済安全保障を重視したサプライチェーンの再構築が進展
- 生産性向上のための設備投資・DX投資が進展。自動化が進み、データ活用による事業活動が本格化
- 最先端技術の研究開発・実証実験や、異業種連携、M&Aが拡大
- カーボンニュートラル達成に向けた脱炭素経営への要請が強まり、対応が不可欠となる
- 製造業を基盤としつつ、スポーツなどのエンタメやクリエイティブ産業などが拡大

まち

- リニア中央新幹線の開業に向けた名古屋駅のスーパーターミナル化、副都心の再開発・再整備が進展
- AI・ビッグデータを活用した街づくりや、公民連携による公共空間の利活用が拡大
- 食・歴史・スポーツ・エンタメの観光資源強化により、プレジャーやインバウンドなどの観光消費が増大
- 大規模地震などに備えた防災・減災対策が進展

社会(生活)

- 次世代エアモビリティ(空飛ぶクルマやドローン)や自動運転の社会実装が始まる
- AIとロボットの導入により、生活環境や社会環境が変化
- テクノロジーの進化に対するスキルギャップを埋めるデジタルリテラシー・デジタルセキュリティ教育が必要となる

2 地域の主要プロジェクト

主な出来事(2023年度～)



3 会議の報告

中期ビジョン2026-2030検討会議(役職員による検討会議)

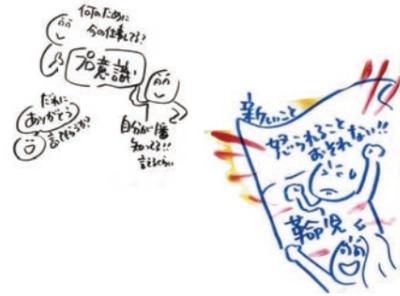
- 1 2024年4月22日(月) 10:00~11:15
 - ・中期ビジョン策定の進め方について
 - ・現中期計画の振り返り・環境変化・現状把握
- 2 2024年5月20日(月) 9:45~11:00
 - ・メンバーからの意見について(結果の共有)
 - ・指標の柱、個別ビジョンの種について

ミドルマネージャー会議

- 1 2024年6月27日(木) 10:00~11:30
 - ・中期ビジョンの方向性(ありたい姿)について
- 2 2024年7月19日(金) 9:30~11:30
 - ・取り組みの柱について
- 3 2025年4月24日(木) 10:00~11:30
 - ・中期ビジョン素案について
- 4 2025年5月14日(水) 9:30~10:30
 - ・中期ビジョン素案について
 - ・選ばれ続ける会議所とは?

担当者ワークショップ

- 1 2024年9月25日(水) 15:00~17:00
 - ・テーマ① 「いつも何かが起こってる! MICE+エンターテインメントフレンドリーなナゴヤ」
 - ・テーマ② 「変化に対応する魅力ある組織に必要なこと」
- 2 2024年10月2日(水) 10:00~12:00
 - ・テーマ① 「あれ?ナゴヤいいじゃん 思わず歩きたくなるナゴヤ」
 - ・テーマ② 「変化に対応する魅力ある組織に必要なこと」



3 2025年2月7日(金) 10:00~12:00

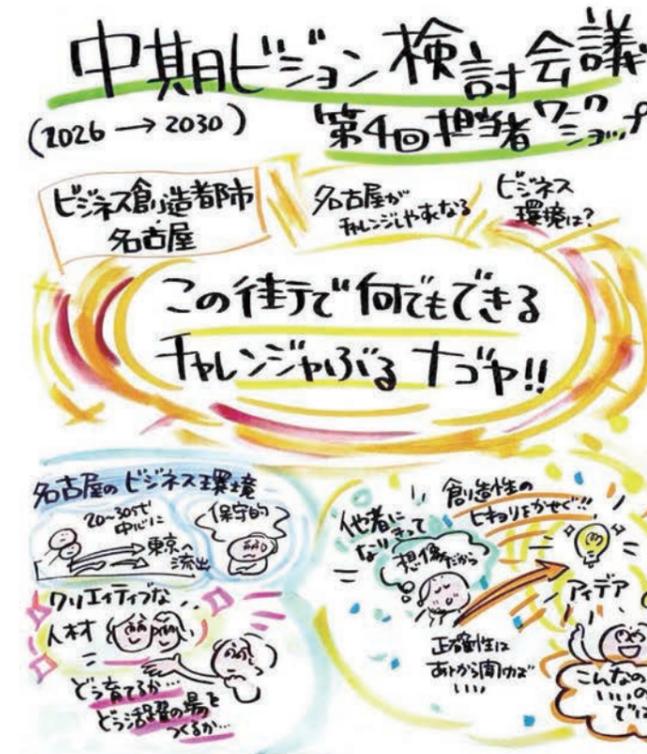
- ・テーマ① 「モノづくりが新たな価値を生み出すために何とかけ合わせればいいのか?」
- ・テーマ② 「実現するための組織に必要なこと」



- ① 神領域的新世界を!
 - ・P.T
 - ・NEO KAWAII
 - ・X P.A.R.L.L
- ② 工場制が育む一製造業×UP
 - ・DX
 - ・持続可能
- ③ 多様な持続可能な社会見たい
 - ・農業
 - ・持続可能
- ④ 組織のハイアワード
 - ・対話連携
 - ・組織
 - ・中ぶら連携

4 2025年2月21日(金) 10:00~12:00

- ・テーマ 「チャレンジャーなナゴヤのビジネス環境を考えよう」



- 一番に自社PR!!
- 会議所がシンパシーなシゴヤへ!!
- 制度の充実を!! 子育て環境 自由な働き方
- 異業種 他社の 個人対面 新出会の場で 変革と技術革新
- 資金獲得の多面的なサポート ~名古屋のシゴヤ~
- 差を埋める!! 11月からは川下で高めのあうん士へ 大企業力ある企業政策提案の協働性!
- ナゴヤHowto. 知り場づくり
- 参加者から 多様な意見が 出る場を! 他社からの 顔見知り
- 「人と人とのつながり」を 確かなる! 中ぶら連携



企画・政策委員会

1 2025年9月11日(木) 15:00~16:30

①報告事項

- ・「中期計画2021-2025」の進捗について
- ・少数精鋭経営のモデルケース調査研究について

②協議事項

- ・「中期ビジョン2026-2030(案)」について

2 2026年1月26日(月) 14:00~16:00

①報告事項

- ・「中期計画2021-2025」の進捗について

②協議事項

- ・「中期ビジョン2026-2030(案)」について
- ・令和8年度 名古屋商工会議所 事業計画(案)並びに予算(案)

常議員会

2026年2月25日(水) 13:00~14:00

- ・「中期ビジョン2026-2030(案)」
- ・令和8年度 名古屋商工会議所 事業計画(案)並びに予算(案)

通常議員総会

2026年3月25日(水) 14:00~15:00

- ・「中期ビジョン2026-2030(案)」
- ・令和8年度 名古屋商工会議所 事業計画(案)並びに予算(案)

4.委員会、会員企業へのヒアリング

常議員会／企画・政策委員会

労働人口の減少

- ・中小企業は人口減少と採用コスト高騰に直面している。
賃金競争力のない企業は人材を確保できないため対策が必要
- ・自社でも少子高齢化による労働人口減少を日常的に感じている。
名商には引き続き実務的な支援に力を入れてもらいたい
- ・他地域への若年層の人口流出は、会員企業共通の課題。
具体的な打ち手を早期かつ重点的に官民連携で出していけると良い
- ・人材をどうやって名古屋に集めるかが重要。若年層が流出している現状を踏まえ、受け入れ環境を整えるべきだと思う

産業育成、インフラ整備

- ・ソフト産業を名古屋で育成・誘致できると良い
- ・労働者や社会の変化に合わせたインフラ整備や維持・管理が重要

地域の魅力・発信強化

- ・名古屋の「住みやすさ」「暮らしやすさ」はリーディングカンパニーの企業誘致に非常に有利である。
データ面からもPRすると良い
- ・クリエイティブな人材が名古屋に集えるような街づくりを、遊び心も含めてもっと積極的に打ち出して
いけると良い
- ・まちづくりを進めていくためには、ある程度大きな規模の企業が核となり、推進していく必要がある
と思う
- ・文化的なコンテンツやイベントを積極的に発信し、人を呼び込んでいくべき
例)どまつり等の若者が興味を持ちやすいエンタメ分野
- ・名古屋の文化も海外の観光客にとって非常に魅力的であると思う。それらの文化財を観光名所として
活用し、外国人を呼び込んでいけると良い
- ・名古屋市内だけでなく広域の連携も視野に入れていけると良い
- ・どんな計画でも「実行するのは人間」であることを忘れてはいけない

会員企業へのヒアリング

人手不足・労働環境・教育

- 人手不足が企業の喫緊の課題となっている。人口増や子育て環境の支援が必要
- 中小企業だからこそ、柔軟な働き方を受け入れることができている
- 大学生・高校生のためのキャリア支援はすでにあるが、小学生等の若いうちから学業だけでなく教育をすると良い

地域づくり・都市機能・交流

- 商店街を活用し、住人の交流や歩いて健康な環境づくりが必要ではないか
- リニア開業がカギ。名古屋に住み、東京への働き手の流出が心配
- 三英傑、コスプレサミット、どまつり等の集客コンテンツを有効活用してほしい
- 街の作り方が中途半端なのが残念。回遊性を持たせる必要がある

物流・国際化・インフラ

- 海外に輸出したくても、セントレアの利便性が低いのが課題。名古屋の街なかの荷物を集めて一緒にセントレアに送れる仕組みがあると良い

名商・ビジネス支援・連携

- 名商は、大企業と出会う機会があるので、交流のハードルを下げて欲しい
- 名商とのコラボレーションの機会があると良い
- 中小企業がスピード感を持ってチャレンジできる環境の整備が大切
- 衰退する他地域の産業の代替機能を担うことが、名古屋ならできるのではないか
- 経営者個人を大切に交流等、「人」にフォーカスした交流事業がよい
- 既存の製造業企業とスタートアップを掛け合わせるとすごいものが作れると思う。スタートアップと知り合える機会があると良い
- 知見のない分野の企業との取引や海外展開等は、名商が相手企業のフィルター役を担ってくれるとありがたい

情報発信・認知度

- 中小企業は発信力が弱い。課題だと感じているので、名商の支援が必要
- 名商は発信力が弱い。良い事業を実施しているが、届いていないことがある

5. アクションのアイデア

◆ ビジネス創造機能

1 モノづくりの技術を活かした取り組み

- 最新のモノづくり技術の紹介
- 産学官連携によるビジネス支援
- 技術の横展開による新規事業支援
- モノづくりと他の分野の掛け合わせの推進(イノベーション)
- デジタル技術と融合したモノづくりの推進
- 人材不足を前提とした中小企業の生産性向上
- 先端技術やデジタルを活用した製品化・商品化支援
- 芸術性を付加価値としたモノづくりの促進
- 徹底した資源の有効活用による持続可能なモノづくりの促進



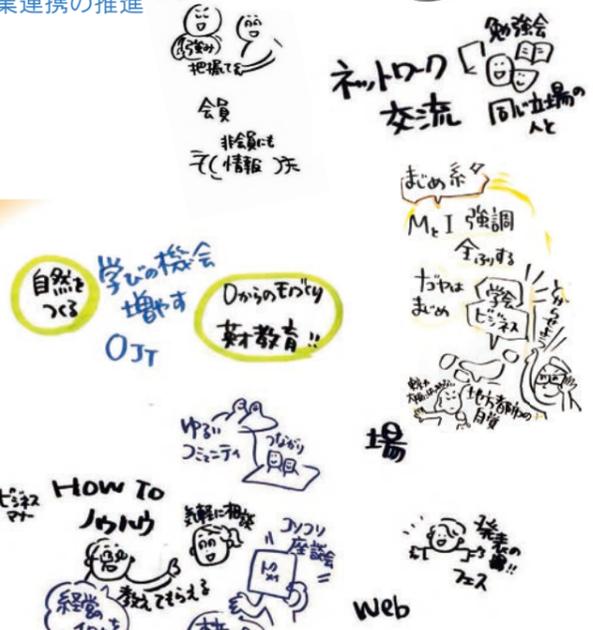
2 挑戦する中小企業の支援

- 創業支援や事業承継支援
- 新規事業創出や海外展開支援
- 経営者や従業員の能力開発支援
- スタートアップ企業やリーディング企業の進化促進
- 多様な人材の受け入れ環境の整備促進
- 次世代産業の育成の強化
- 若年層への早期のビジネス教育を通じた未来の経営者の育成
- 規制緩和や特区指定による挑戦できる環境整備の促進
- AI等のデジタル技術を基盤とした新産業の育成



3 ネットワークの活用

- 会員企業同士のネットワークの見える化と各種交流会の開催
- リーディング企業の発掘
- 幅広い業種・業態において、マッチング機会を提供
- 中小企業が公的機関や教育機関等と接点を持つ機会を強化
- スタートアップやスポーツチーム等、イノベーションを生む事業連携の推進
- オンラインサイト等でのマッチング機会強化
- 中小企業がプロ人材や優良企業と出会う機会の創出
- デジタルに強い学生・副業人材等とのマッチング機会創出
- 人やモノのハブ機能としての場の整備



4 情報発信・情報収集

- 各種ビジネス情報の積極的収集
- 会員企業のビジネス課題をもとにした要望・提言活動
- 全国の商工会議所のネットワークを活かした情報発信
- 中小企業への情報提供を想定したマーケティング機能強化
- 中小企業の活用を想定したAI等による情報分析機能強化
- 国や行政への情報発信機会の創出
- 展示会等、企業の技術力や商品・サービスのPR機会の創出
- 中小企業による社会実験や実証事業の実績収集と発信
- 影響力ある情報発信プラットフォームの確立



◆ 交流都市機能

1 思わず歩きたくなる魅力

- 市内の各地区の魅力のPR
- 唯一の観光資源の活用促進
- 映画のロケ地やアニメのモデルとしての活用促進
- ナイトタイムエコノミーの拡大
- モノづくり技術の観光コンテンツ化推進
- 中小企業と連携したグルメ情報の発信
- 新技術や最先端技術の体験会等によるビジネスイベントの実施
- 四季折々のイベントの開催
- まちなかを歩きながら、安全・安心に楽しめるデジタルコンテンツの作成

2 住む人・働く人の環境整備

- 水辺や憩いの空間の整備促進
- 広い道路空間の活用促進
- 各種支援施策の発信
- 子育て世代をはじめ、多様な人材が住みやすい環境の整備
- 住む人・働く人のシビックプライドの醸成
- 公共空間等の商業利用の推進
- 国内有数の学生や外国人等の受け入れ環境の整備
- 誰もが参加しやすい地域イベントの実施
- 住環境や税制面での優遇施策の充実

3 交通インフラ整備

- 交通インフラ(陸・海・空)の整備と利用促進活動
- インバウンド及びアウトバウンドの促進
- 高いおもてなしによる価値の提供
- 回遊性を高める新たなモビリティの普及啓発
- 宿泊施設等の受け入れ環境の整備
- 学会や研修等の積極的な受け入れ
- MICEの積極的な誘致による各種国際会議の実施
- スポーツや音楽等、エンターテインメント性の高いイベントの開催
- デジタル技術等による交流や回遊を促すハードとソフト整備

4 歴史・文化の発信

- 多様なツールを使った名古屋の魅力発信
- ビジネス客を想定した歴史資産の紹介ツール作成
- 土産品等の紹介
- 歴史資産等の一般利用促進(例:会議で使用等)
- 歴史や文化の深堀りによる情報発信量の強化
- 他都市との比較による都市の優位性の調査
- ニッチな分野や地元住民しか知らない観光情報の収集と発信
- アプリ等による情報発信ツールの制作
- 多言語対応の強化



5 名古屋商工会議所の歴史

1 名古屋商工会議所の存在と使命

名古屋商工会議所は、黎明期にあった明治初期の名古屋経済の中で誕生した。

当時、当地で活躍した実業者たちは、旺盛な起業家精神のもと、様々な挑戦と創造を行い、東京や大阪に比肩する近代産業の創出や育成に尽力することで、「産業都市・名古屋」を築き上げる一翼を担った。

そうした実業者たちが、まだ見ぬ「明日の名古屋」について議論を交わしながら意見を取り纏め、「地域の声の代弁者」となって、国や行政に訴えかけるために必要とした「力を結集するための機能」が商工会議所である。

こうしたことから、商工会議所は、実業家(会員企業)の集合体と言え、会員企業が名古屋商工会議所の価値であるとともに、地域の経済発展を支える一員である。

時代の移り変わりとともに、名古屋商工会議所に求められる役割は変化するものの、組織の成り立ち、担うべき使命は設立当初より変わることがない。

今後も名古屋商工会議所は、会員企業の発展と地域振興を通じ、わが国の経済発展に貢献していく。

商工会議所について

商工会議所法によって組織・運営され、地区内における商工業の振興発展に努めるとともに、地域の商工業者の世論を代表する公的な性格を持つ地域総合経済団体

商工会議所の4つの特色

総合性

業種、規模、個人、法人にかかわらず、全ての商工業者が加入できる

地域性

地域を基盤として商工業の発展を図る

公共性

会員主体の組織であるが、会員の枠を超えて地域全体のために活動する

国際性

世界各国と交流を深める国際性豊かな団体

経営支援

経営に関する相談、人材の確保・育成、商談・交流イベント、共済等、企業経営に役立つ事業やイベントの実施。

政策提言

地域企業の声を取りまとめ、国・自治体に対し税制改正や中小企業関係施策、インフラ整備等に関する要望、提言活動を実施。

地域振興

自治体、各種業界団体と連携を図りながら、魅力あるまちづくり、地域文化の振興に向けた商工業、観光、イベント等のバックアップを実施。

2 名古屋商工会議所の足跡1

| 元号 | 主な出来事 |
|--|--|
| 明治 | 明治14年(1881年) 名古屋商法会議所の誕生 公益を図るとともに、商工業の伸展に資することを目的に、43名の青年実業によって設立(全国で16番目の商法会議所) |
| | 名古屋港の開港に尽力 開港に向けて苦難が続く名古屋港について、必要性を訴え続け、明治40年(1907年)に実現 |
| | 明治の産業発展に貢献 明治43年(1910年)の大規模博覧会「第10回関西府県連合共進会」の開催、明治44年(1911年)の「中央線の全線開通」に向けた建設促進活動等を実施 |
| | 大正14年(1925年) 名古屋放送局の開局 いち早く名古屋放送局の設立願いを提出し、ラジオ放送のスタートに尽力 |
| 昭和 | 昭和3年(1928年) 御大典奉祝名古屋博覧会 昭和天皇の即位記念と生産の改善・商勢の拡大を目的に開催された「御大典奉祝名古屋博覧会」の成功に尽力 |
| | 昭和12年(1937年) 名古屋駅の誕生 名古屋駅の整備について尽力 |
| | 昭和(初期～中期)の産業発展に貢献 昭和12年(1937年)の「名古屋汎太平洋平和博覧会」の開催や、昭和14年(1939年)の「国立総合大学 名古屋帝国大学」の設立に尽力 |
| | 昭和29年(1954年) 名古屋テレビ塔の誕生 日本で最初の集約電波塔である「名古屋テレビ塔」の建設に尽力 |
| 平成 | 昭和31年(1956年) 第1回名古屋商業感謝祭 地元商業の発展のため、「名古屋商業感謝祭」(現「な・ご・や商業フェスタ」)を開始 |
| | 昭和33年(1958年) 名古屋空港(現 県営名古屋空港)の整備促進 愛知県・名古屋市とともに「名古屋空港協議会」を組織し、整備促進や航空路線の拡充に尽力 |
| | 昭和(中期～後期)の産業発展に貢献 昭和34年(1959年)の「ロサンゼルス地区商業会議所との姉妹提携」をはじめとした国際交流や昭和34年(1959年)の「伊勢湾台風」の復旧対策本部の設置等の復旧支援等を実施 昭和40年(1965年)「名神高速道路の全線開通」へ尽力したほか、昭和60年(1985年)の世界各国の製品を展示した「ワールドインポートフェア」の開催を実現 |
| | 平成元年(1989年) 世界デザイン博覧会 デザイン都市を目指した新たな挑戦として「世界デザイン博覧会」の開催に尽力 |
| 平成17年(2005年) 中部国際空港(セントレア)の開港 将来の国際化の進展と、それに伴う大量・高速輸送時代到来への対応として「中部国際空港」の開港に尽力 | |
| 平成17年(2005年) 愛・地球博 「自然の叡智」というテーマのもと開催された国際博覧会「愛・地球博」の開催に尽力 | |
| 平成18年(2006年) メッセナゴヤ 日本最大級の異業種交流展示会として以降毎年開催 | |

以降、現在まで、様々な事業やイベントの実施、企業支援、提言・要望活動に尽力

3 名古屋商工会議所の足跡2



初代会頭

伊藤次郎左衛門(祐昌) いたう呉服店(後の株松坂屋)

会頭在任期間: 1881年3月～1885年2月

- 1881年、公益を図るとともに商工業の伸展を目的として、伊藤次郎左衛門、岡谷惣助ら43名の同志が集い名古屋商法会議所を設立。32歳の若さで初代会頭に就任。
- 伊藤銀行(後の株東海銀行)の設立、名古屋博物館(県下の産業振興を目的とした物産陳列館)の館長を務めるなど、地域の産業振興に尽力した。



第6代会頭

奥田正香 奥田正香商店(味噌溜製造)

会頭在任期間: 1893年7月～1913年10月

- "名古屋の渋沢栄一"と呼ばれる。東京や大阪に匹敵する産業都市へ成長させるべく、財界のリーダーとして資産家グループを一つにまとめあげ、電話架設、熱田港(名古屋港)開港、鉄道誘致、日本銀行の支店誘致など名古屋商工業の近代化に尽力。
- 米商会所頭取、名古屋株式取引所理事長などの要職を務める。
- また、時代の変化を読み取り、新規事業を次々立ち上げ、外部資本の導入やインフラ系企業の設立、外部の人材登用など地域の経済・産業の発展に貢献した。

【設立法人】

名古屋株式取引所(株名古屋証券取引所の前身)、尾張紡績(株)(現/東洋紡(株))、名古屋瓦斯(株)(現/東邦ガス(株))、名古屋倉庫(株)(現/東陽倉庫(株))、名古屋電灯(株)(後の東邦電力(株))、日本車輛製造(株) 他

世界初の商工会議所

世界初の商工会議所は、1599年にフランスのマルセイユで組織されたマルセイユ商工会議所。

それ以来、ヨーロッパ大陸諸国には、フランスの範をとった商工会議所が続々と設立された。

日本では、列強諸国と結んだ不平等条約の撤廃を目的に、1878年に東京、大阪、神戸で現在の商工会議所の前身である商法会議所が設立された。



発行日 令和8年3月
発行 名古屋商工会議所
〒460-8422 名古屋市中区栄2-10-19
TEL 052-223-5713
URL <https://www.nagoya-cci.or.jp>